

医学生の手帳に見る明治の「近代医学」

—村山源三郎旧蔵 宮城医学校受講ノート—

今回は、明治19(1866)年に「宮城医学校」を卒業した医師・村山源三郎氏の、医学校在学時代の受講ノートを紹介します。東北歴史博物館の特別展「医は仁術」展(4/18～6/21)から帰ってきたばかりの資料です。

仙台では、廃藩置県で仙台藩の医学校が廃止されたあと、西洋医学にもとづく新たな病院と医学校が、元藩医たちの奔走で設立されます。この学校はやがて県立の「宮城医学校」となり、明治20(1887)年に廃止されるまでの間宮城県下唯一の医学教育機関として、地域における近代医学の普及に重要な役割を果たしました。

当館が所蔵するノートは、内科学・解剖学などの専門科目のほか化学・物理などの基礎科目を含め計40冊以上にわたり、その多くは教師たちの講義を口述筆記したものです。墨で丁寧に記された和装本のノートは、まだ江戸時代の香りが残る中で近代医学の修得に励む医学生たちの熱意をそのまま物語っているようです。

「江戸の医学」から「近代医学」への急速な転換が図られていく時代における、医学教育や医学生たちの姿を垣間見させてくれます。



写真手前：『生理学』の口述筆記ノート